

渡島・檜山地域の概要



北海道農政事務所
函館地域拠点

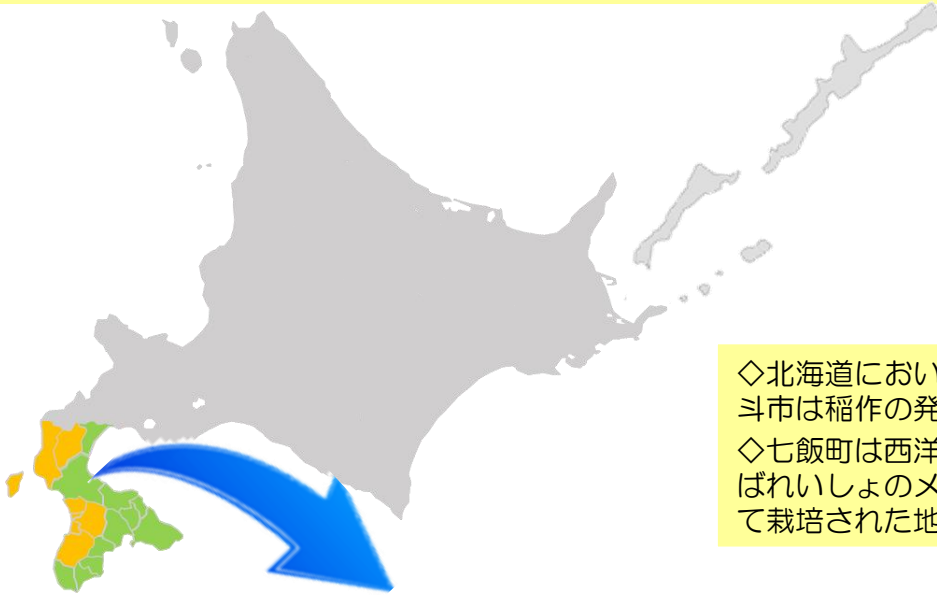
第1

地域の概況

◇位置：北海道の南西部に位置し、東は内浦湾（噴火湾）、西は日本海、南は津軽海峡、太平洋と三方を海に囲まれている。北海道農業の発祥の地として、歴史に培われた農業技術を基に、地域ごとに特色ある農業生産が展開されている。

◇気候：比較的温暖で春は早く秋は長く、道内としては最低気温が高く、春から夏にかけては最高気温がやや低く経過する。冬期間は積雪が少なく、真冬日も少ない地域である。

◇北海道新幹線の基点である「新函館北斗駅」、空の玄関口である「函館空港」、国土交通省指定の重要港湾である「函館港」があり、日本各地とつながる重要な役割を果たしている。



◇北海道において八雲町は酪農の、北斗市は稲作の発祥の地。

◇七飯町は西洋りんごが、厚沢部町はばれいしょのメークインが日本で初めて栽培された地域。

18市町（2市16町）

◇七飯町にある西洋りんご発祥のオブジェ。



ひやま
檜山地域

おくしり
奥尻町

◇厚沢部町にあるメークイン発祥の記念碑。



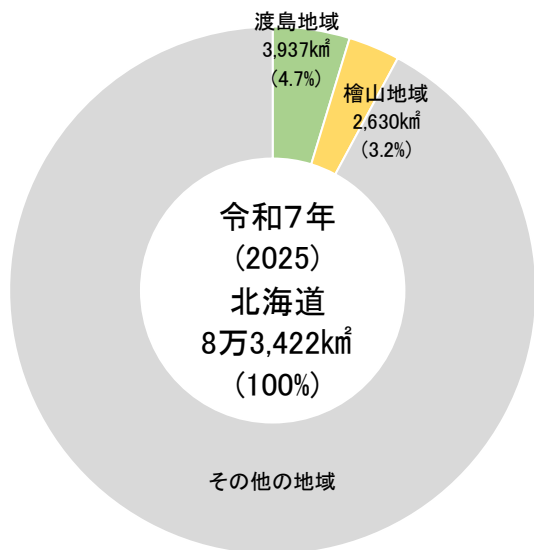
おしま
渡島地域

第1 地域の概況(つづき)

◇総土地面積は6,567km²（渡島地域：3,937km²、檜山地域：2,630km²）で、北海道全体の7.9%（同：4.7%、同：3.2%）を占め、渡島地域は滋賀県、檜山地域は佐賀県と同程度。

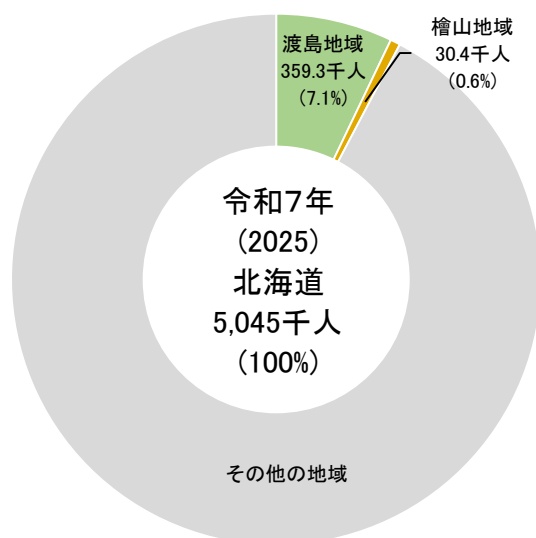
◇総人口は39.0万人（同：35.9万人、同：3.0万人）で、北海道全体の7.7%（同：7.1%、同：0.6%）を占め、総人口（拠点管内）の60.7%を函館市が占めている。

総土地面積



資料：国土交通省国土地理院「令和7年全国都道府県市区町村別面積調(令和7年7月1日)」
注：四捨五入のため計と内訳が一致しない場合がある(以下同じ)。

人口割合



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和7年1月1日)」

第2 農業の概要

◇道南地域は、北海道としては温暖な気候を生かした園芸作物をはじめ、渡島北部の酪農、駒ヶ岳山麓の養豚や養鶏、七飯町大沼や函館市周辺の肉用牛、檜山南部における収益性の高いアスパラガス立茎栽培など、地域ごとに特色ある農業生産が展開されている。また、道南地域で品種開発された米の「ふっくりんこ」は、北海道の高級ブランド米として評価されている。

◇GI（地理的表示）に登録されている産品として「今金男しゃく」（令和元年9月登録、今金町、せたな町で生産）、「檜山海参（ヒヤマハイシェン）」（令和2年3月登録、檜山地域で生産）、「しりうちにら北の華」（令和7年11月17日登録、知内町、木古内町で生産）がある。



知内町のにら



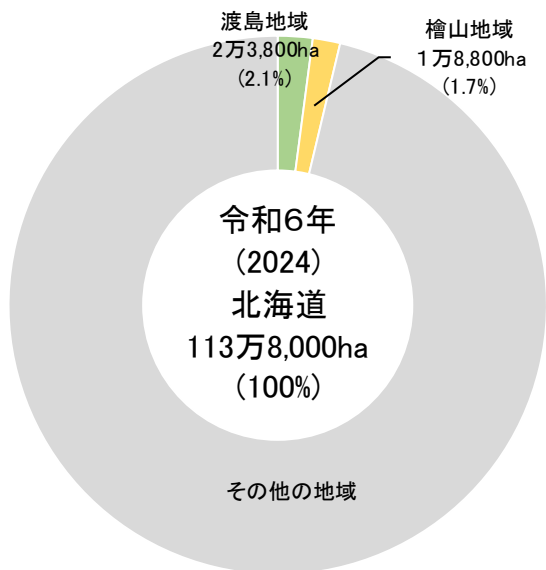
函館育ちライスターミナル

1 農業構造の状況

耕地面積

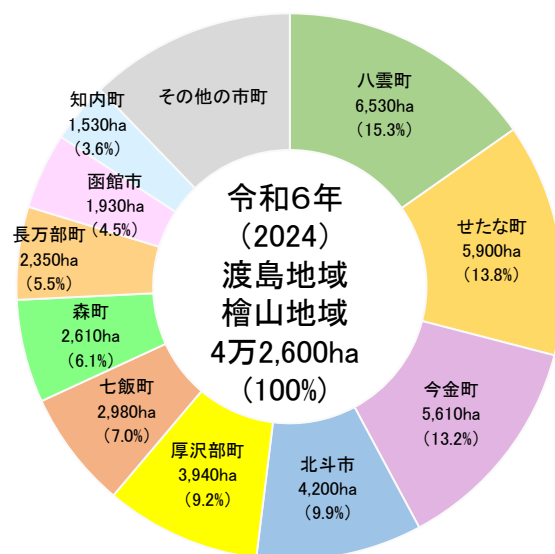
- 耕地面積は4万2,600ha（渡島地域：2万3,800ha、檜山地域：1万8,800ha）で、北海道の3.7%（同：2.1%、同：1.7%）。
- 市町村別の耕地面積は、大きい順に、八雲町、せたな町、今金町の順となっている。
- 主要農作物の作付面積割合は、渡島地域が水稻63.4%、ばれいしょ10.9%、大豆12.5%、小麦8.3%、そば3.0%の順で、檜山地域が水稻41.8%、ばれいしょ11.9%、大豆18.9%、小麦16.1%、そば8.3%の順となっている。

耕地面積の割合



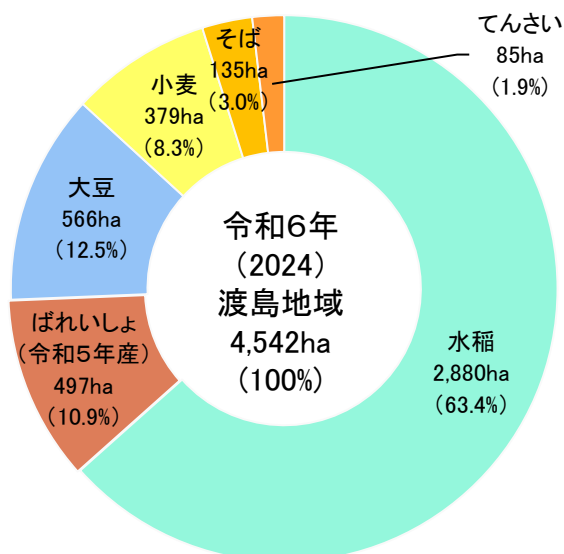
資料：農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」、「農林水産関係市町村別統計」

市町村別の耕地面積割合



資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

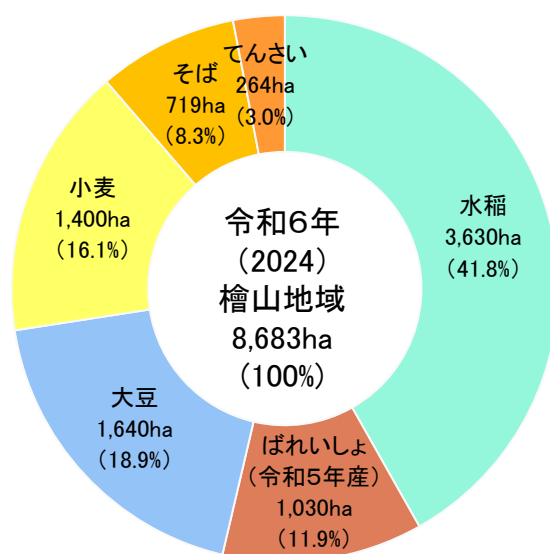
主要農産物の作付面積割合（渡島地域）



資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

注：ばれいしょは、令和5年産の値である。

主要農産物の作付面積割合（檜山地域）



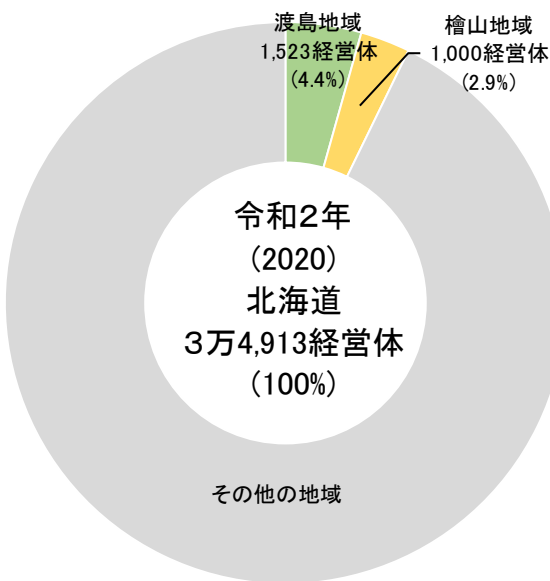
資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

注：ばれいしょは、令和5年産の値である。

農業経営体

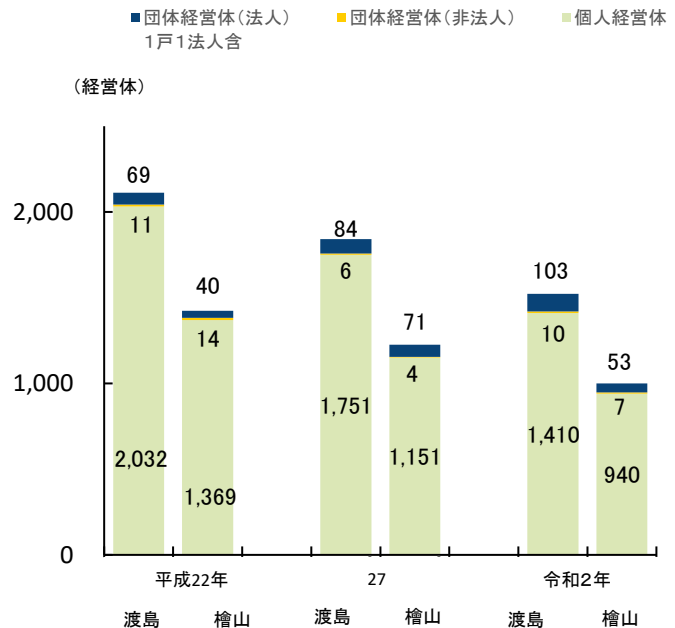
- ・農業経営体数は2,523経営体（渡島地域：1,523経営体、檜山地域：1,000経営体）で、北海道の7.2%（同：4.4%、同：2.9%）。
- ・農業経営体の個人経営体数は、渡島地域が10年前の2,032経営体から1,410経営体となり、622経営体の減少。檜山地域が10年前の1,369経営体から940経営体となり、429経営体の減少。
- ・農業経営体の団体経営体数は、渡島地域が10年前の80経営体から113経営体となり、33経営体の増加。檜山地域が10年前の54経営体から60経営体となり、6経営体が増加。
- ・農産物販売金額1位の経営体数は、大きい順に、稲作（31.1%）、露地野菜（18.4%）、施設野菜（15.4%）の順となっている。
- ・個人経営体における年齢別農業従事者数は、60歳以上の従事者数が全体の約6割となっている。

農業経営体数の割合



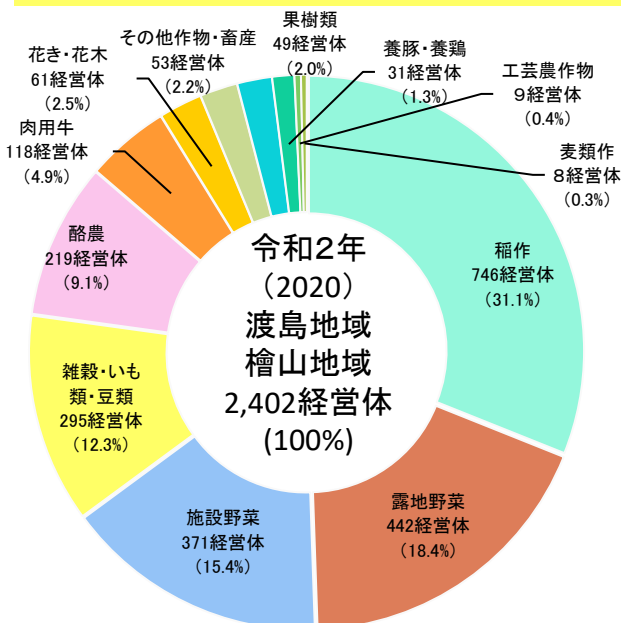
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

農業経営体数の推移



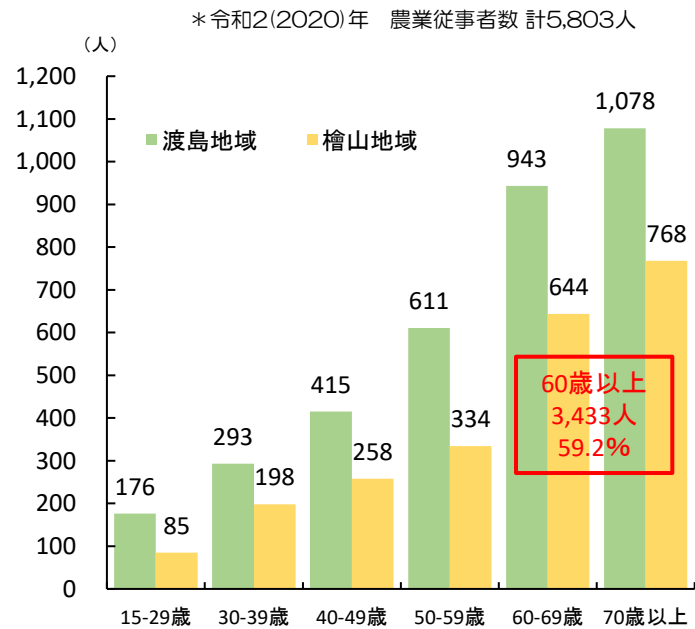
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

農産物販売金額1位の部門別経営体数割合



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

年齢別農業従事者数(個人経営体)



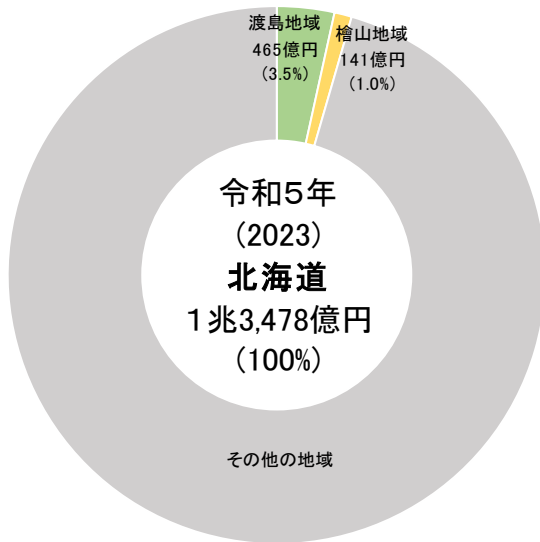
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

農業産出額

- ・農業産出額は606億円（渡島地域：465億円、檜山地域：141億円）で、北海道の4.5%（同：3.5%、同：1.0%）。
- ・品目別では、渡島地域は野菜と畜産（乳用牛・肉用牛・豚）で85%を占めている。檜山地域は米と野菜と畜産（乳用牛・肉用牛）で78%を占めている。
- ・農業産出額の多い市町は、森町、八雲町、七飯町、北斗市、せたな町、今金町の順となっている。

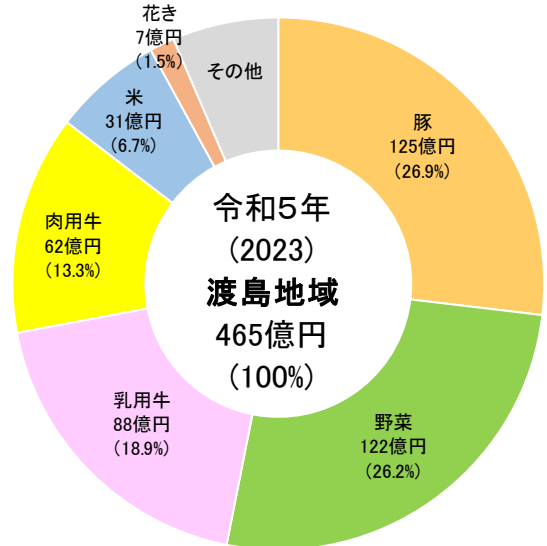
・「市町村別農業産出額（推計）」は、都道府県別農業産出額を農林業センサス及び作物統計を用いて市町村別に按分して作成したものである。

農業産出額の割合



資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」、「市町村別農業産出額（推計）」

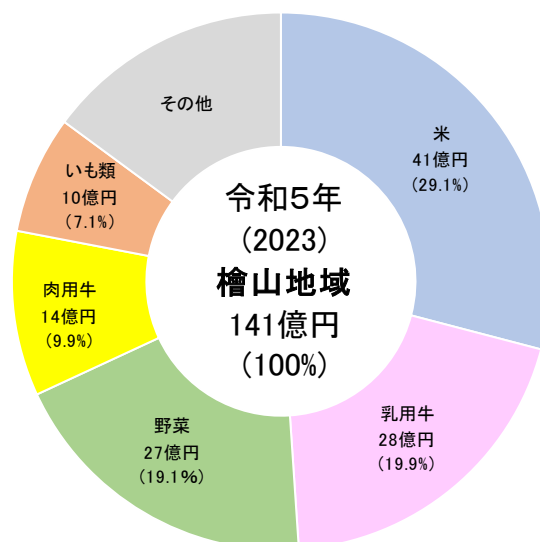
品目別農業産出額の割合（渡島地域）



資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」

注：その他には、麦類、雑穀、豆類、果実、花き、工芸農作物、その他作物、鶏、その他畜産物が含まれている。

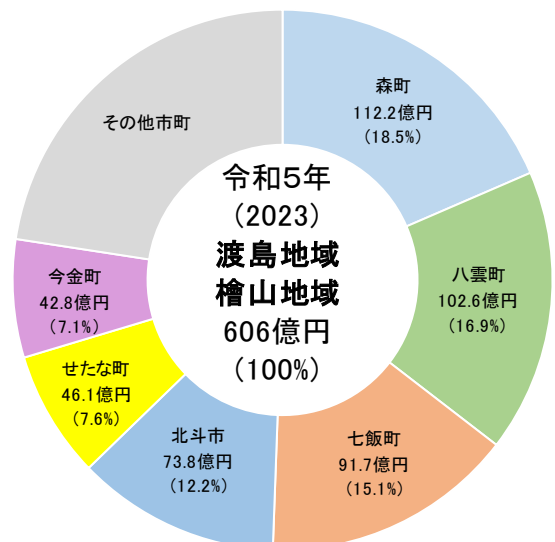
品目別農業産出額の割合（檜山地域）



資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」

注：その他には、麦類、雑穀、豆類、果実、花き、工芸農作物、その他作物、豚、鶏、その他畜産物が含まれている。

市町別の農業産出額割合



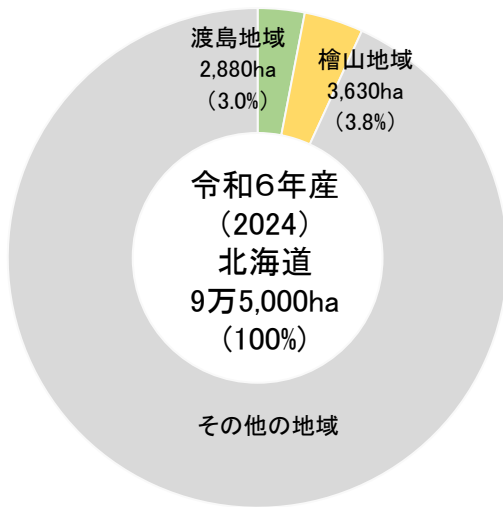
資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」

2 主要農畜産物の生産等の状況

水稻

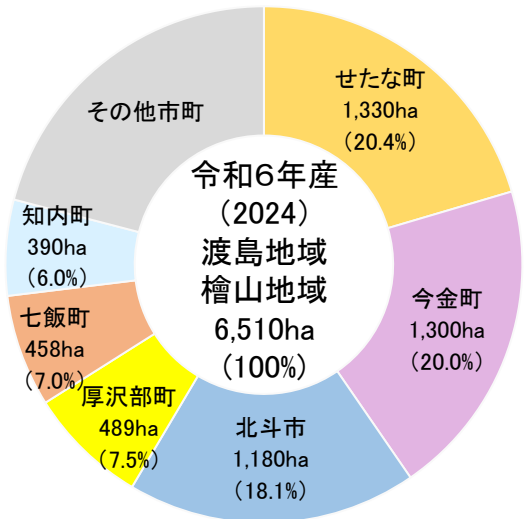
- ・作付面積は6,510ha（渡島地域：2,880ha、檜山地域：3,630ha）で、北海道の6.9%（同：3.0%、同：3.8%）。
- ・市町別の作付面積は、大きい順に、せたな町（道内28位）、今金町（道内31位）、北斗市（道内34位）の順となっている。
- ・収穫量は3万4,400t（渡島地域：1万4,700t、檜山地域：1万9,700t）で、北海道の6.1%（同：2.6%、同：3.5%）。
- ・令和6年産の作付面積は、前年産に比べて、渡島地域は増減なし、檜山地域は50ha増加。

作付面積の割合



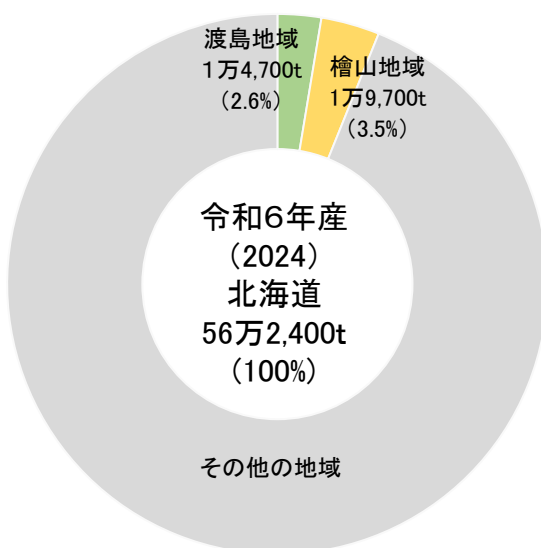
資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

市町別の作付面積割合



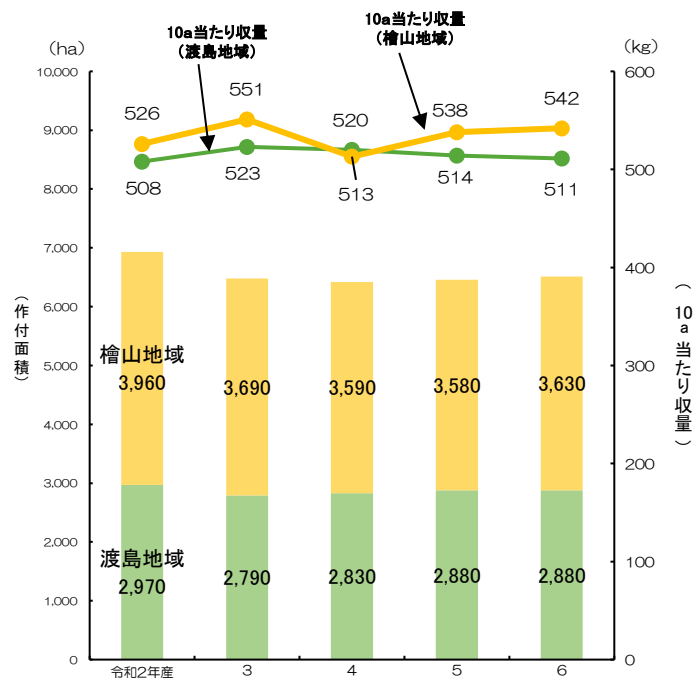
資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

収穫量の割合



資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

作付面積・10a当たり収量の推移

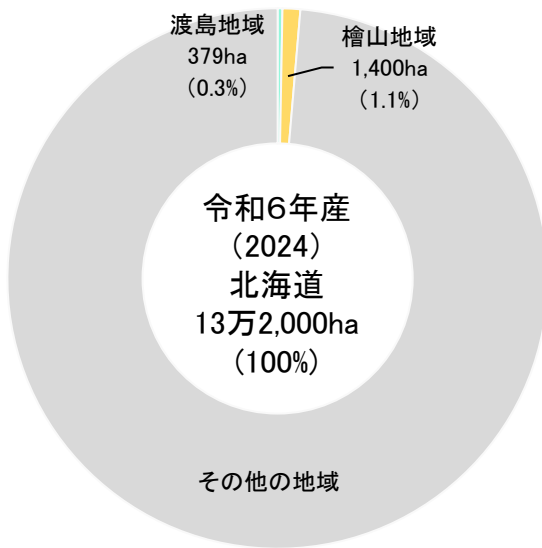


資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

小麦

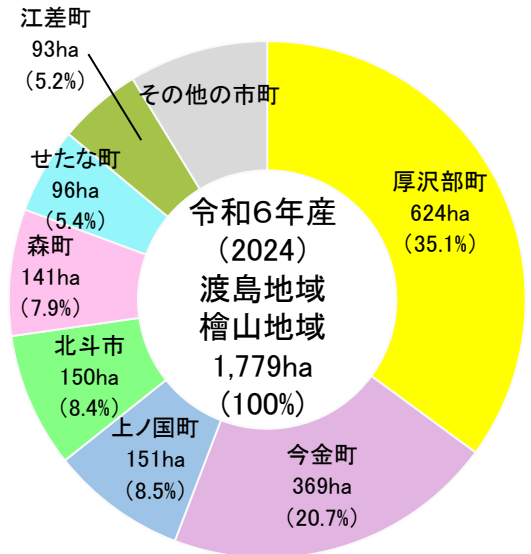
- ・作付面積は1,779ha（渡島地域：379ha、檜山地域：1,400ha）で、北海道の1.3%（同：0.3%、檜山地域：1.1%）。
- ・市町別の作付面積は、大きい順に、厚沢部町（道内51位）、今金町（道内66位）の順となっている。
- ・収穫量は7,100t（渡島地域：1,730t、檜山地域：5,370t）で、北海道の1.0%（同：0.2%、檜山地域：0.8%）。
- ・令和6年産の小麦作付面積は前年産に比べて、渡島地域では43ha、檜山地域では10haそれぞれ増加。

作付面積の割合



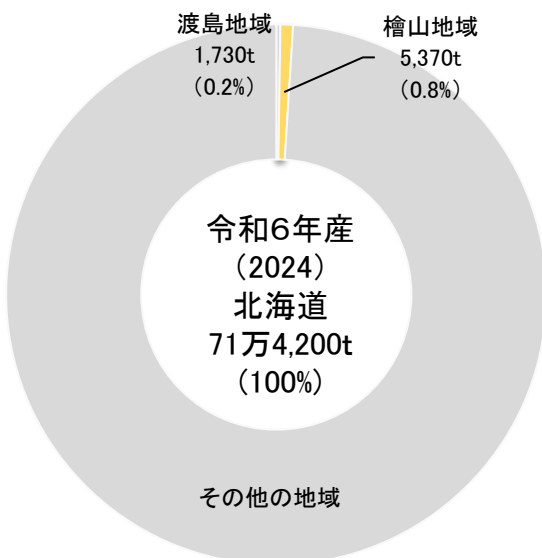
資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

市町別の作付面積割合



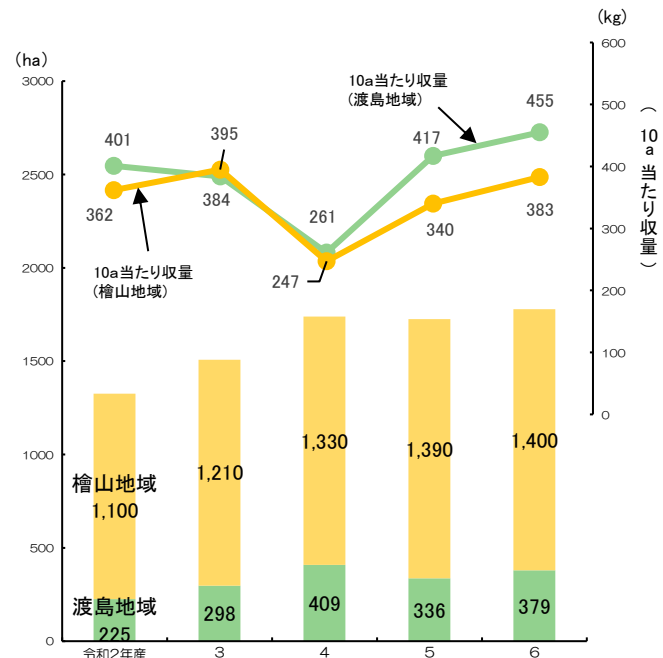
資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

収穫量の割合



資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

作付面積・10a当たり収量の推移

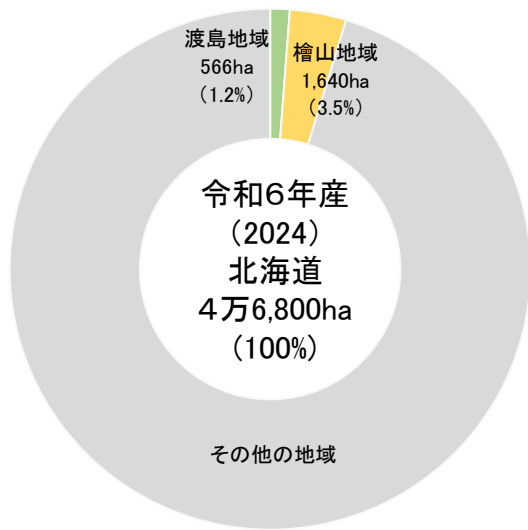


資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

大豆

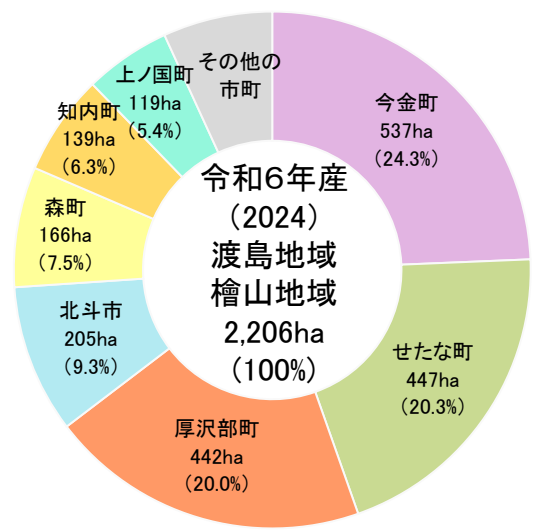
- ・作付面積は2,206ha（渡島地域：566ha、檜山地域：1,640ha）で、北海道の4.7%（同：1.2%、檜山地域：3.5%）。
- ・市町別の作付面積は、大きい順に、今金町（道内30位）、せたな町（道内33位）、厚沢部町（道内34位）の順となっている。
- ・収穫量は5,300t（渡島地域：1,240t、檜山地域：4,060t）で、北海道の4.0%（同：0.9%、檜山地域：3.1%）。
- ・令和6年産の大豆作付面積は、前年産に比べて、渡島地域は41ha増加、檜山地域は20ha減少。

作付面積の割合



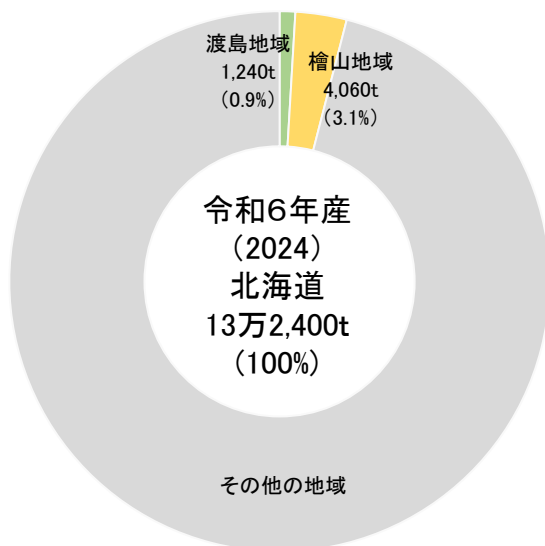
資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

市町別の作付面積割合



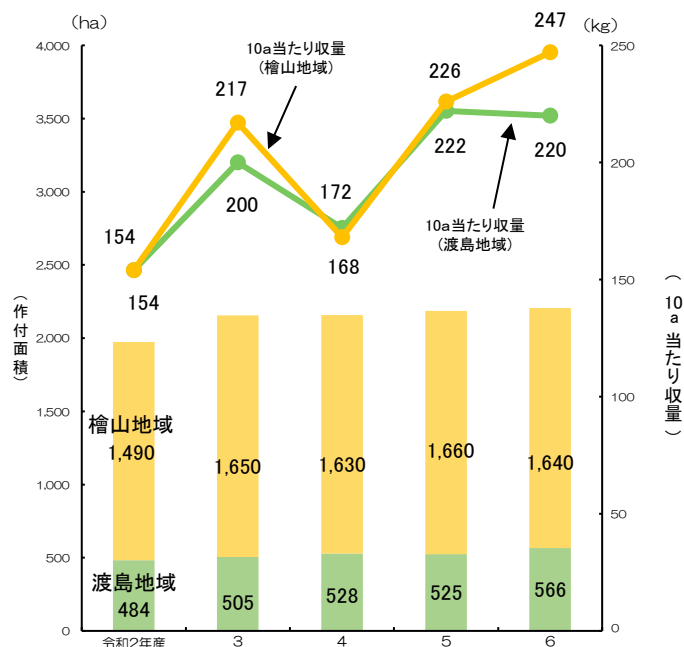
資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

収穫量の割合



資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

作付面積・10a当たり収量の推移

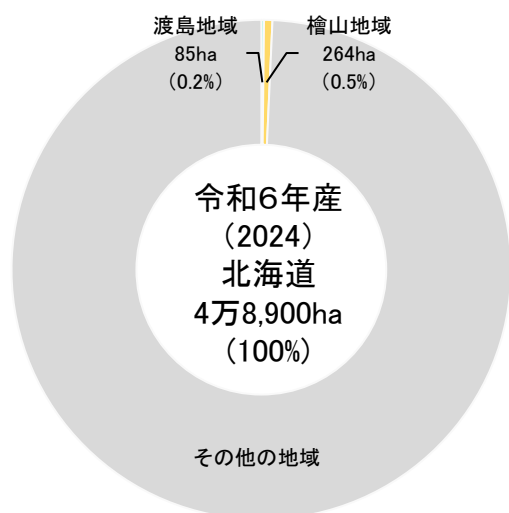


資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

てんさい

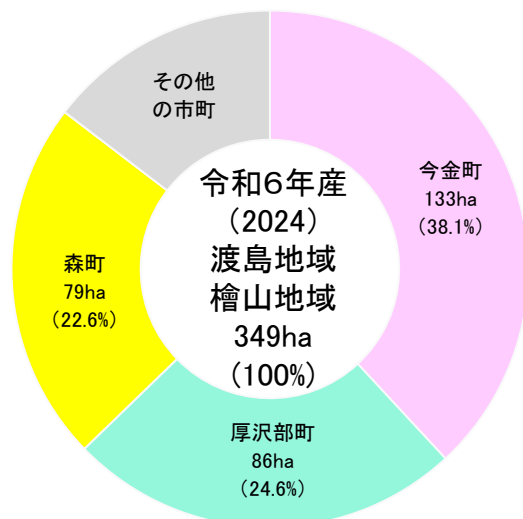
- ・作付面積は349ha（渡島地域：85ha、檜山地域：264ha）で、北海道の0.7%（同：0.2%、檜山地域：0.5%）。
- ・市町別の作付面積は、大きい順に、今金町（道内51位）、厚沢部町（55位）、森町（60位）の順となっている。
- ・収穫量は1万9,570 t（渡島地域：3,770 t、檜山地域：1万5,800 t）で、北海道の0.6%（同：0.1%、檜山地域：0.5%）。
- ・令和6年産のてんさい作付面積は、前年産に比べて渡島地域が22ha減少、檜山地域が増減なし。

作付面積の割合



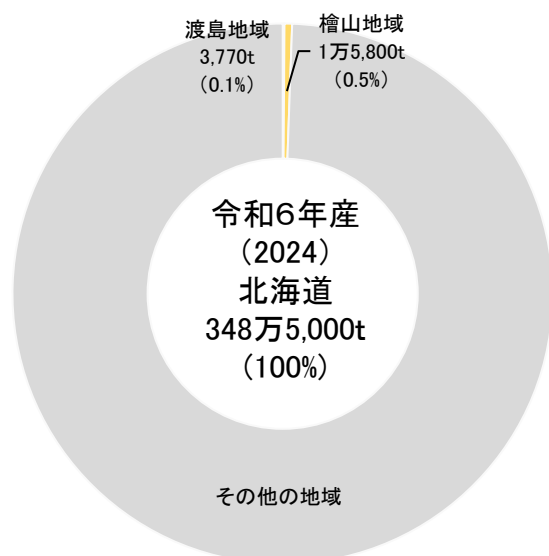
資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

市町別の作付面積割合



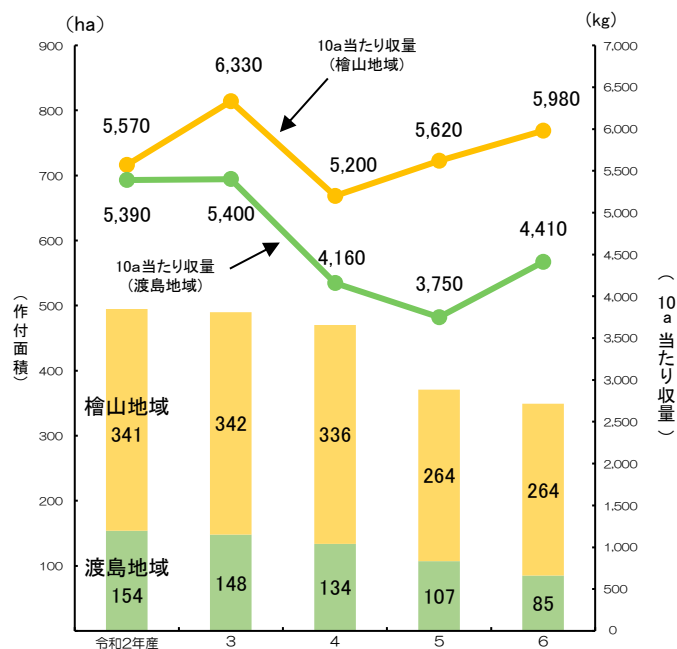
資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

収穫量の割合



資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

作付面積・10a当たり収量の推移

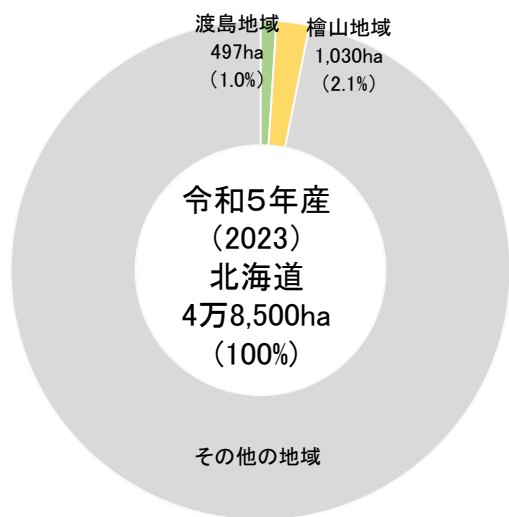


資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

ばれいしょ

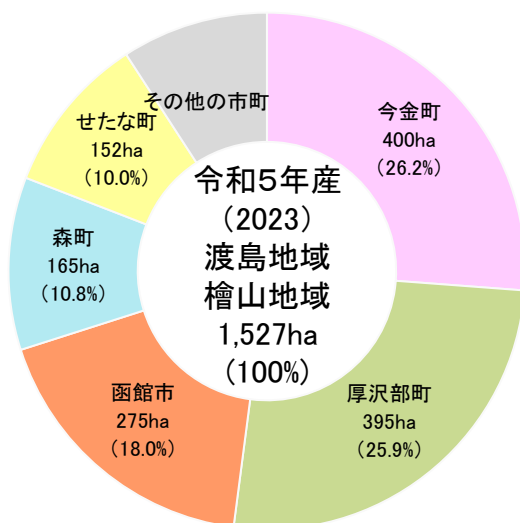
- ・作付面積は1,527ha（渡島地域：497ha、檜山地域：1,030ha）で、北海道の3.1%（同：1.0%、同：2.1%）。
- ・市町別の作付面積は、大きい順に、今金町（道内28位）厚沢部町（道内29位）、函館市（道内36位）の順となっている。
- ・収穫量は4万7,800t（渡島地域：1万4,200t、檜山地域：3万3,600t）で、北海道の2.5%（同：0.7%、同：1.8%）。
- ・令和5年産のばれいしょ作付面積は、前年産に比べて、渡島地域は50ha、檜山地域は50haそれぞれ減少。

作付面積の割合



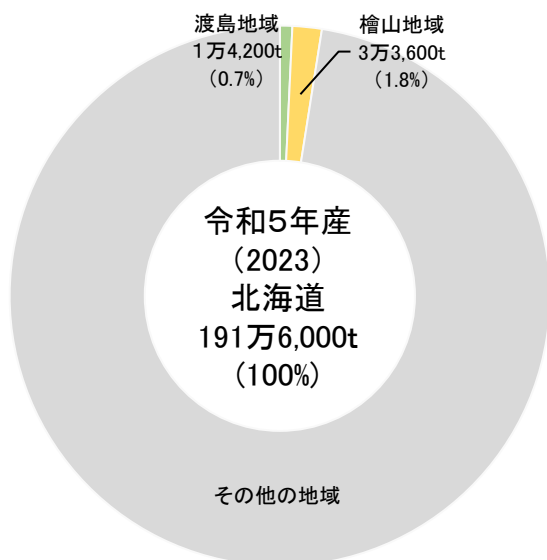
資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

市町別の作付面積割合



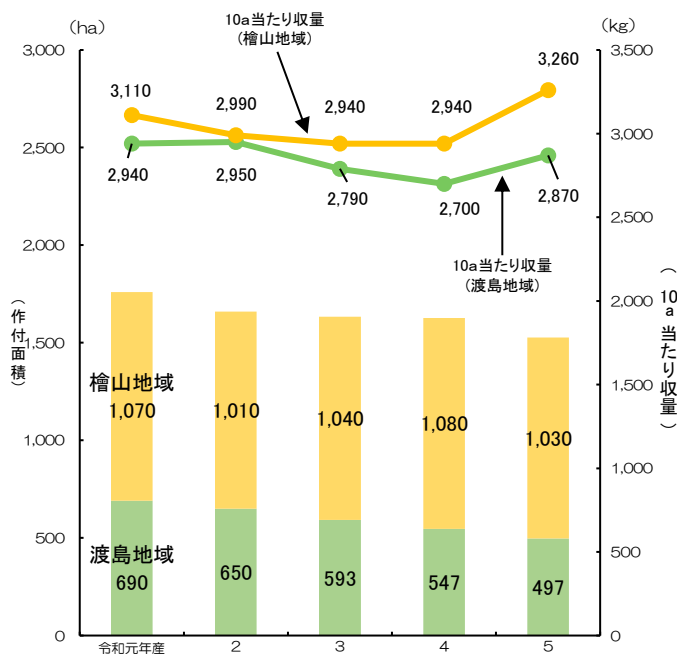
資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

収穫量の割合



資料：農林水産省統計部「作物統計」、「農林水産関係市町村別統計」

作付面積・10a当たり収量の推移



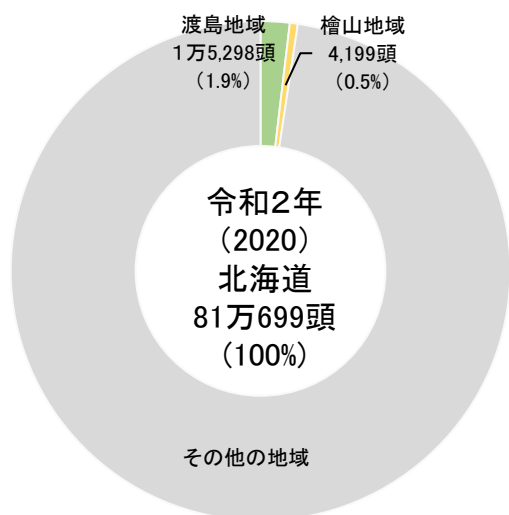
資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

乳用牛

- 飼養頭数は1万9,497頭（渡島地域：1万5,298頭、檜山地域：4,199頭）で、北海道の2.4%（同：1.9%、同：0.5%）。
- 市町村別の飼養頭数は、大きい順に、八雲町、せたな町、長万部町の順となっている。
- 牧草専用地の面積は1万2,723ha（渡島地域：9,386ha、檜山地域：3,337ha）で、北海道の3.1%（同：2.3%、同：0.8%）。
- 1経営体当たり飼養頭数※は、渡島地域が10年前の63.7頭から、28.5頭増加し92.2頭。檜山地域が10年前の53.5頭から、4.8頭増加し58.3頭。両地域とも飼養規模の拡大が進んでいる。

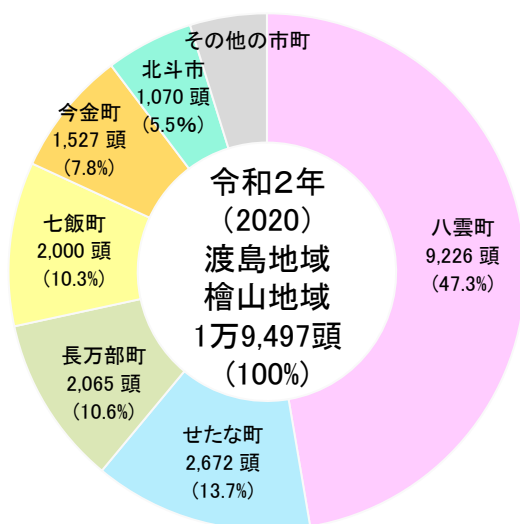
※1経営体当たり飼養頭数は、農林業センサスの乳用牛飼養経営体数と飼養頭数により算出している。

飼養頭数の割合



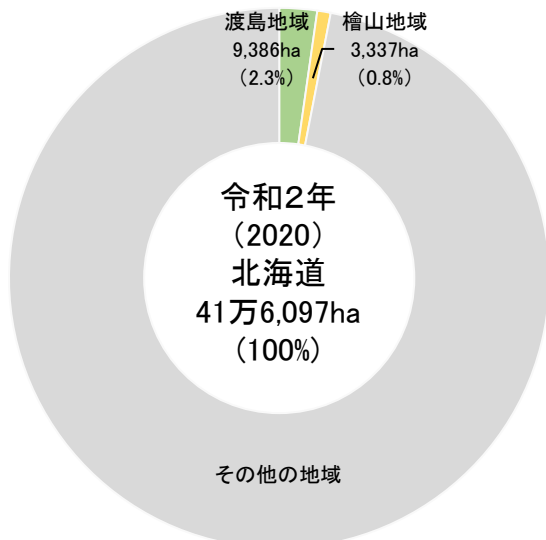
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

市町村別の飼養頭数割合



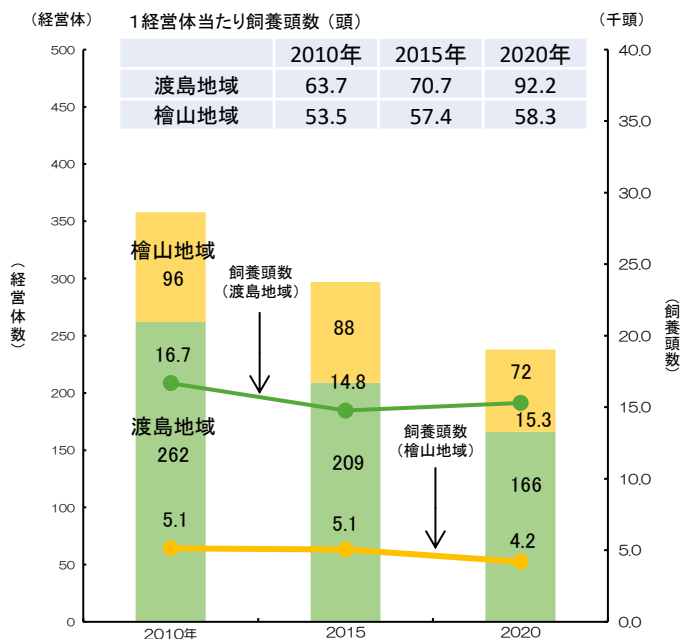
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

牧草専用地面積の割合



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

飼養経営体数・飼養頭数の推移



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

第3 地域の取組事例

1 地理的表示(GI)保護制度

今金町



【今金男しゃく】



【檜山海参(ヒヤマハイシェン)】

渡島・檜山地域のG I 登録「今金男しゃく」と「檜山海参」

地理的表示(GI)保護制度は、地域で長年育まれた特別な生産方法によって、高い品質や評価を獲得している農林水産物・食品の名称を品質の基準とともに国に登録し、知的財産として保護するものです。

渡島・檜山地域では、今金町農業協同組合のG I 登録申請により「今金男しゃく」が令和元年9月9日、地理的表示法に基づき、登録されました。

北海道の農産物では、夕張メロン、十勝川西長いもに続く登録となり、渡島・檜山地域としては初の登録となりました。

また、ひやま漁業協同組合のG I 登録申請により、令和2年3月30日、「檜山海参(ヒヤマハイシェン)」が北海道の水産物として初めての登録となり、渡島・檜山地域として2件目の登録となりました。

※「檜山海参(ヒヤマハイシェン)」とは、生産地の地先海面で漁獲されたナマコを同地域で加工した干しナマコです。前処理では、ナマコの腹面を切り腸と砂・泥等を取り出しきれいに洗い流します。次に真水でボイルし、ざるに移し余熱を取り、内臓等の残りを掃除し、さらにもう一度真水でボイルし、40日間かけて乾燥させます。

2 ワイン生産プロジェクト

函館市



【原料用ぶどうのほ場】

仏老舗ワイナリーが函館でぶどう栽培を始め、ワイン生産を目指す

(ドメヌ・ド・モンティーユ社)

フランスの老舗ワイナリー、ドメヌ・ド・モンティーユ社は、現地法人の「ド・モンティーユ&北海道」を立ち上げ、函館市桔梗町に約16haの農地を取得し、令和元年7月に植樹祭を行い、醸造用ぶどうの栽培を始めました。現在は、新たに取得した農地を含め約30haで醸造用ぶどうを栽培しています。

また、令和5年9月30日に醸造所が完成、令和6年7月末にはレストラン併設のワイナリーがオープンしました。



【完成した醸造所】

3 輸出の取組

厚沢部町



【販売の様子】



【長期保管実証実験の様子】

規格外品のかぼちゃを海外へ

(のうのたくみ)

(あっさぶ農匠)

あっさぶ農匠では、ホクホク感と甘さの両方をそろえたプレミアムかぼちゃ「さがらマロン」（品種名：九重栗イレブン）のブランド化を目指し、7戸の農家で栽培を始めました。

国内で規格外品となる小玉のかぼちゃの有効活用を考えていたところ、海外市場では、小玉のかぼちゃを好む傾向があるということで、2017年に香港で試験販売を行い、2019年には、香港に加えシンガポールにも輸出を行いました。

その後も長期保存が可能な品種の選定や長期保管に適した貯蔵施設の整備によって、販売期間の長期化を実現。GLOBAL GAPの認証も取得し、2020年は香港、シンガポールに加え、マレーシア、台湾に、2024年にはグアムにも輸出を開始し、輸出金額は800万円となりました。

4 輸出の取組

函館市



【海外でPRしている様子】



【パッケージ写真】

北海道産のコメを海外へ

(函館米穀株式会社)

函館米穀株式会社は、近年、コメの国内需要の低迷により、国外への販路拡大を模索していたなか、首都圏で開催された商談会の参加を契機に輸出を開始しました。

海外での販売にあたり、「ふっくりんこ」、「ゆめぴりか」、「ななつぼし」等の販売方法についてバイヤーと相談した結果、北海道産をアピールできるとして、炊き方や保存方法等は相手国の言語で表記するものの、それ以外は、あえて国内と同じパッケージを利用し販売することにしました。その後も現地に強い業者や販売代行業者による販売促進もあって、輸出先・輸出量は順調に増えて、2020年には、香港、オーストラリア、アメリカを中心に10か国・地域に150 tを輸出。現在、輸出先も2～3か国増加しましたが、海外での販売促進の強化と、海上輸送環境の影響を受けにくい真空包装の導入などにより、更なる輸出拡大を目指しています。

5 輸出の取組

北斗市

お米のおいしさ・米菓（ポン菓子）を海外へ
（有限会社澤田米穀店）

【ポン菓子のパッケージ】



【店舗にならぶ商品】

有限会社澤田米穀店は、ポン菓子を製造するために、特別栽培米を生産する知内町帰山農園（JGAP認証）とともに農商工連携事業の認定を受け自社工場を整備したほか、消費期限を長期化（1年）するために北海道食品加工研究センターと民間企業が取得した特許技術の共同使用权を受け、油を使用しない加工菓子製品を開発しました。

2018年にジェトロ北海道が開催したシンガポールの商談会に特別栽培米を原料に使ったポン菓子を試行出展したところ、北海道産を原料とする食品への信頼度が高いこと、食物アレルギー対策としてもポン菓子の需要が見込めることを実感しました。

2024年にはEU、アメリカ、中国、シンガポールへ計450kgを輸出し、2029年には輸出数量を1500kgまでに増やすことを目指しています。

6 有機農産物の生産・加工・販売の取組

北斗市



【加工施設（とまと工房）】

有機農産物で消費者をつなぐ
（株式会社しみず農園）

株式会社しみず農園では、2008年に野菜の納入先から、他の野菜との差別化のための有機農産物の栽培を提案されたことがきっかけとなって、ハウス3棟でトマト、ミニトマト、キュウリ等の有機栽培を始めました。

ホテルや飲食店・青果店等に足を運び有機農産物の販路を開拓する傍ら、野菜ソムリエの資格を取得し、セミナーや収穫体験の受け入れ等食育活動を通じ野菜の魅力を伝える活動も行ってきました。

2011年に起きた東日本大震災の影響で納入先であったホテルが生鮮食品の仕入れを縮小したことを契機に有機ミニトマトを使ったジュースの製造・販売を始め、有機加工食品のJAS認証を取得しました。現在は有機の加工食品としてミニトマトジュースのほかにケチャップやドレッシングの製造販売も行っています。

今後は有機ミニトマトを使用したアイスクリームの製造・販売や有機農産物直売所の開設、有機農産物を使用した料理を提供するファームレストランの開設を目指しています。



【加工品（右：ケチャップ、左：ジュース）】

7

6次産業化

せたな町



【収穫を喜ぶ高松代表(左)と社員の方々】



【株式会社なな実製造の加工食品】

食の簡便化ニーズに対応した、多品種・カラフルなばれいしょの生産・加工・販売 (株式会社なな実)

株式会社なな実では、2010年、法人化したことを契機に水稻主体から収益性の高い畑作物主体に経営をシフトしました。

ばれいしょの生産は、早出しに加え秋収穫栽培の取組を開始しましたが、軟腐病の大量発生により、法人設立初年度は大きな課題が生じました。

その後、生産面積の増加に伴い、販売方式を系統出荷から直接販売に変更し、市場関係の知人の紹介もあり、東京の市場での販路を獲得したものの、道内向けは道内主産地に勝てず返品に至ったこともありました。

道内主産地との差別化を図るため、2012年から多品種・カラフルなばれいしょを生産し、自ら加工製造・販売するなど6次産業化の取組を開始。また、2020年には、函館市内に農場直送のジャガイモとフライドポテトを販売する直営店をオープンしました。

今後は、ばれいしょの作付けを拡大し、大豆・小豆等の輪作作物の生産に力を入れるとともに、社員の意見を取り入れ、新たなばれいしょ加工食品の開発やレストラン等とのコラボにより知名度を高め、更なる販路拡大を目指していきます。

8

みどりの食料システム戦略

せたな町



【よしもりまきば 大口代表】



【飼養中のめん羊(サフォーク種)】

「循環型自然農法」へのこだわり (よしもりまきば)

よしもりまきばの大口義盛氏は、1999年に親から経営継承し親世代からの慣行農法を引き継いで経営を開始しましたが、2004年頃から自然環境に負荷をかけない環境保全型農業をやりたいという思いを持ちました。

何も使わない自然農法で、失敗も経験。現在は、めん羊の排せつ物とミニトマトの規格外品、籾殻、ぬか等の自農場の残さで作った完熟たい肥による土づくりを実施しています。

2007年に「米」、2009年に「大豆」、「ミニトマト」の有機農産物JAS認証を取得しました。

今後は、①生産量を増やし、大豆、ミニトマトはもとより、有機栽培米を、将来を担う子供たちや多くの消費者に届けること、②実習生を受け入れ、「循環型自然農法」の伝承を図ること、③各地の有機農業の仲間と連携し、取組の輪を広げることを目指していきます。



【白石農園の皆さん】



【商標登録した「神トマト」】

「神トマト」の商標登録とSNSを活用した情報発信で顧客拡大（白石農園）

白石農園では、家族やパート従業員、農福連携による雇用者の手で、米、トマトなど、約30品目を栽培しています。

トマトは、2009年に特別栽培農産物の認証を取得し、皮が薄く柔らかい、甘みと酸味のバランスが良い「神トマト」として、2021年に商標登録。「白石農園」の広告塔になっています。

2019年から直売所の営業状況やイベント内容等を伝えるInstagramを開始、翌年にはYou Tube配信を開始したことで、直売所へのお客が増加しました。2022年には固定客が増加し黒字へ転換、クチコミによる更なる顧客増へつながっています。また、直接お客様の顔が見え、お客様の声も届くことで、これまで以上にやりがいを感じています。

今後は、「神トマト」の中でも糖度9度以上を「神トマト」プレミアムとして差別化して販売、生食販売に向かないトマトに付加価値を付けたトマトソースやドライトマトなど加工食品の製造・販売（6次化）を目指していきます。



【ハウス施設の全景】



【温泉熱を利用して生産したトマト】

温泉熱を利用した野菜の生産で化石燃料の3割削減と脱炭素を実現

（株式会社寅福）

株式会社寅福は、2014年に従業員30人で設立され、廃校跡地を利用し、トマト栽培を始めました。

地域資源の温泉熱を有効活用し化石燃料の使用量を削減するなど環境に配慮した経営を行ってきました。2019年にオランダ式ハウス施設を輸入し、室内温度や湿度のデータ管理、水や肥料を自動供給するスマート農業を導入した植物工場を建設しました。

トマト栽培で排出される年間1,000トンの植物残さを堆肥化、ボイラーは有害なNOxやSOxが出ないLPガス使用のボイラーを選定し、排出された二酸化炭素を光合成に使用するなど、さらなる環境負荷低減に取り組んでいます。

このような取組により、農作物の環境負荷低減の取組の「見える化」ラベル（愛称「みえるらべる」）を取得しています。

市町村別の総土地面積、耕地面積、総人口等

単位：1,000万円

市町村	総土地面積		耕地面積						総人口		世帯数		農業 経営体数	
	道内 シェア	道内 シェア	計	道内 シェア	田	道内 シェア	畑	道内 シェア	道内 シェア	道内 シェア	道内 シェア	道内 シェア	道内 シェア	道内 シェア
	km ²	%	ha	%	ha	%	ha	%	人	%	戸	%	経営体	%
渡島地域	3,937	4.7	23,800	2.1	6,480	2.9	17,300	1.9	359,271	7.1	203,889	7.2	1,523	4.9
函館市	678	0.8	1,930	0.2	224	0.1	1,700	0.2	236,515	4.7	138,313	4.9	157	0.5
北斗市	397	0.5	4,200	0.4	2,340	1.1	1,860	0.2	42,810	0.8	22,074	0.8	464	1.5
松前町	293	0.4	416	0.0	15	0.0	401	0.0	5,818	0.1	3,579	0.1	15	0.0
福島町	187	0.2	106	0.0	62	0.0	44	0.0	3,378	0.1	1,900	0.1	17	0.1
知内町	197	0.2	1,530	0.1	1,090	0.5	444	0.0	3,783	0.1	1,962	0.1	135	0.4
木古内町	222	0.3	939	0.1	554	0.3	385	0.0	3,528	0.1	1,982	0.1	33	0.1
七飯町	217	0.3	2,980	0.3	1300	0.6	1,680	0.2	27,139	0.5	14,036	0.5	308	1.0
鹿部町	111	0.1	200	0.0	-	-	200	0.0	3,508	0.1	1,857	0.1	3	0.0
森町	369	0.4	2,610	0.2	373	0.2	2,240	0.2	13,582	0.3	7,464	0.3	160	0.5
八雲町	956	1.1	6,530	0.6	521	0.2	6,010	0.7	14,514	0.3	7,956	0.3	193	0.6
長万部町	311	0.4	2,350	0.2	-	-	2,350	0.3	4,696	0.1	2,766	0.1	38	0.1
檜山地域	2,630	3.2	18,800	1.7	9,000	4.1	9,770	1.1	30,428	0.6	17,253	0.6	1,000	3.2
江差町	109	0.1	1,080	0.1	877	0.4	201	0.0	6,607	0.1	3,971	0.1	81	0.3
上ノ国町	548	0.7	870	0.1	669	0.3	201	0.0	4,133	0.1	2,336	0.1	87	0.3
厚沢部町	461	0.6	3,940	0.3	1970	0.9	1,970	0.2	3,269	0.1	1,768	0.1	220	0.7
乙部町	163	0.2	831	0.1	297	0.1	534	0.1	3,107	0.1	1,721	0.1	65	0.2
奥尻町	143	0.2	536	0.0	85	0.0	451	0.0	2,138	0.0	1,339	0.0	19	0.1
今金町	568	0.7	5,610	0.5	2,630	1.2	2,980	0.3	4,444	0.1	2,341	0.1	250	0.8
せたな町	639	0.8	5,900	0.5	2460	1.1	3,430	0.4	6,730	0.1	3,777	0.1	278	0.9

資料：国土交通省国土地理院「令和7年全国都道府県市区町村別面積調（令和7年7月1日）」
農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計（令和6年）」、「2020年農林業センサス」
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（令和7年1月1日）」
注1：北空知地域の計は、各市町の数値を単純に合算したものである。
注2：ラウンドの関係で、計と内訳は一致しない場合がある。

市町村別の農業産出額(推計)

単位:1,000万円

市町村	農業 産出額		耕 種										畜 産							
			小 計		米	麦 類	雑 穀	豆 類	い も 類	野 菜	工芸 農作物	その他 農作物	小 計		肉用 牛	乳用 牛	生 乳	豚	鶏	その他 畜産物
	道内 順位		道内 順位										道内 順位							
渡島地域																				
函館市	198	139	168	90	6	0	0	1	24	120	1	2	29	130	6	21	19	x	-	x
北斗市	738	66	675	23	129	3	0	7	1	528	0	1	63	113	34	29	17	0	-	-
松前町	12	170	2	165	-	-	-	-	0	0	-	2	10	146	10	-	-	-	-	-
福島町	48	160	4	159	2	-	0	0	0	2	-	0	44	122	-	-	-	-	44	-
知内町	82	150	77	110	41	1	1	3	0	30	0	1	5	155	1	3	x	-	0	-
木古内町	67	155	41	129	30	-	-	0	0	11	0	0	27	132	8	19	18	-	0	-
七飯町	917	55	417	43	50	0	-	0	1	296	0	70	500	52	351	126	117	x	4	x
鹿部町	73	154	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	73	109	73	-	-	-	-	-
森町	1,122	38	268	74	21	4	0	11	15	203	6	7	854	29	8	15	x	782	45	4
八雲町	1,026	49	72	115	37	1	0	2	2	25	1	5	955	25	113	548	499	233	1	60
長万部町	367	107	6	156	-	-	-	-	0	6	-	0	361	67	14	124	113	x	-	x
檜山地域																				
江差町	62	157	56	121	24	1	0	3	4	22	2	2	6	153	1	-	-	x	-	x
上ノ国町	74	153	51	124	22	3	0	4	1	20	0	1	24	135	1	-	-	x	-	x
厚沢部町	334	111	277	70	57	10	1	21	39	129	6	10	58	116	58	-	-	-	-	-
乙部町	33	164	32	136	8	1	2	2	3	17	0	0	1	164	0	-	-	-	-	1
奥尻町	21	167	17	141	3	-	-	-	0	4	-	9	4	156	4	-	-	-	-	-
今金町	428	98	280	68	138	10	1	27	42	53	9	0	148	92	48	100	94	-	-	-
せたな町	461	93	228	83	157	3	5	16	15	29	2	0	232	83	30	175	163	x	1	x

資料：農林水産省統計部「令和５年市町村別農業産出額（推計）」
注１：「市町村別農業産出額（推計）」は、都道府県別農業算出額を農林業センサス及び作物統計を用いて市町村別に按分して作成したものである。
注２：その他農作物は、果実、花き及びその他作物の計であり、秘匿措置が講じられている品目を除いて単純に合算したものである。
注３：道内順位の順位付けは、原数（100万円）により判定したものである。